

《埼玉協同病院だより》

# ふれあい

2013年 No.312

発行：埼玉協同病院

〒333-0831 川口市木曾呂1317

Tel.048-296-4771

Fax.048-296-7182

ホームページ：http://www.kyoudou-hp.com

# 10

## 診療科紹介 総合内科

# 「懐の深い、頼りになる内科」 として魅力ある科に

医療の進歩に伴い、当院にも年々専門的で高度な医療が求められるようになっていきます。救急医療の分野でも地域における位置付けが大きくなり、救急患者様が増加しています。このような情勢を鑑み2012年度に内科の病棟のシステム変更を行い、専門分野の診療を中心にを行う科と、その他の疾患も含めて総合的に診療する総合内科に分けました。さらに総合内科には人員を厚く配置し、研修医教育の中心を担うことになりました。

当院は地域の急性期病院ですので、あらゆる種類の病気を持った患者様が入院されます。その内科的緊急入院の多くを総合内科が担当しています。命の危険が迫っている患者様や診断がついていない患者様を担当することも多く、緊張感を持って仕事をしています。

総合内科という名前は、ひと昔前はあまり知られていなかった科です。高齢の患者様や複数の病気を持った患者様が增多するに伴い一つの診療科だけでは解決できない場合も増え、多方面の知識と視点を持った医師が求められるようになっていきます。日常診療では肺炎・心不全・腎

不全といった重要な臓器の病気や糖尿病・脳梗塞についての診療を行うのはもちろんのこと、高齢患者様に食べる代わりに栄養投与を行うのかそれとも自然に経過していただくのがよいか迷うケース、病気は良くなったけれども経済的問題を抱えるケース等についても、日々討議しています。

私たち総合内科は「特に専門家に任せるべきものでない限りは、どのような患者様でも担当する」という態度で診療を行っています。所属する内科医師数は病院内で最も多く、おのおの得意分野も持っていますので、協力しながら診療に当たっています。自分たちの力量で解決できる場合も多ありますが、必要に応じて他科の専門医師に相談します。緊急入院が多く患者様の入れ替わりも早いので所属医師・看護師の迅速な対応が求められます。発生頻度が稀な疾患や困難な症例に出会ったときには自分たちの診療の幅が広が



島村医長 山田医師 中島医師

(前列左側から) 山下医師、草野医師、石山医師  
(後列左側から) 久志本医師、天野医師、忍総合内科科長、肥田医師

る喜びを感じつつ仕事をしています。

医学生・研修医の中では総合内科・総合診療を志す人が増えています。「懐の深い、頼りになる内科」として院内でも地域でも認知される存在になって、多くの医師が集まる魅力ある科にしていきたいと思っています。

(総合内科科長 忍 哲也)

## 第30回 地域医療懇談会を開催！ 過去最多の参加者に当院への期待を実感!!

9月19日(木)、ふれあい会館にて第30回目となる地域医療懇談会を開催しました。この会は、地域医療機関の医師、看護師、地域連携に関わる方々をお招きして、当院との「顔の見える連携」を深める目的で開催しています。今回は過去最多数となる34医療機関59名の皆様にお越しいただきました。

懇談会では、小児科長の荒熊智宏医師より「小児科のご紹介」と題して、小児科の診療体制・専門外来を報告し、当院の特色とも言うべき『育児支援』に関わる教室の紹介をしました。他職種も含めて地域の子育て支援に取り組んでいる実績をお伝えすることができました。また



小児科の症例紹介の様子

当院の診療科の医師をはじめ多くの職員が参加し、普段顔を合わせて話すことができない地域

医療機関の皆様との交流を深めることができ、大変有意義な会となりました。

参加していただいた皆様から多数の期待の言葉をいただき、よりいっそう地域連携を推進し、さらに当院を地域の中で発展させていかなければならないと強く感じました。

(地域連携課課長 松本 浩一)

## 越谷市竜巻被害支援報告

9月2日に発生した竜巻の被害にあわれた地域へ、医療生協さいたまは災害支援チームを派遣しました。

私が支援に行った日は、竜巻発生から2日後でした。現地は災害の爪あとがまだ生々しく残っていました。私たちは、地域の方と一緒に家屋の片付けのお手伝いや組合員さんと地域訪問を行いました。住民の方から「今日初めて大きな打ち身のあざができていことに気づきました」「夜が眠れない」「畳は細かなガラスの破片が突き刺さり、布団を敷いて眠れない」などの声が聞かれました。ボランティア入りした団体も多く、東北の石巻のTシャツを着た若者も多く見られ、日本はつな



健康相談所を設置し血圧測定や傷の手当てを行いました

がっているな、と実感しました。

異常気象が続き、このような災害が今後も続くことが懸念されますが、医療生協さいたまは、即、機動力を発揮できる組織の強みがあります。組織の輪を広げ、他団体とも連携しあっていくことで、困難も乗り越えられればと思います。(在宅看護長 高橋 恵子)

## 職種紹介 認定看護師シリーズ⑧

# 患者様に寄り添う看護を第一に

10月はピンクリボン月間であることをご存じでしょうか？

ピンクリボン運動は乳がんを命を落としたり悲しい思いをする人が少しでも減るようにとアメリカの市民団体から始まった乳がん撲滅のための啓発活動です。

日本でも全国各地でピンクリボンのイベントや啓発活動は盛んに行われていますが、欧米の検診受診率が70%以上であるのに対し日本は20～30%と先進諸国の中では最低のレベルです。

乳がんの早期発見・早期治療により尊い命を守りましょう。

乳がんの患者様の多くは子育てや家事、仕事など社会的役割が大きい中で、診断告知を受け心理的に動揺し生活に支障をきたす恐れもあります。

限られた診療時間の中で患者様が自分の思いを言葉にするのは容易ではありません。そんな時は看護師がいつも側にいることを忘れて下さい。乳がんに対する正しい知識を持ってい

ただき、病気と向き合いながら心のつらさを一人で抱えず生活できるように一緒に考えましょう。

当院にはがん医療の専門職が各々の得意分野を活かしチーム医療を行っています。私自身もその一人として患者様やご家族に寄り添った看護を第一に、外来・病棟を問わず不安や疑問などの相談や心のケア、生活指導など継続的な支援を心がけてまいります。

乳がん看護認定看護師として今後も自己研鑽し皆様のお役に立ちたいと考えています。



乳がん認定看護師  
小平 悦子

## シリーズ 医療の質の改善④ 職業やタバコ、お酒の量を聞くのはなぜ？

当院では、医療の質を定量的に測るための指標を300以上設定しています。測定値をもとに課題を明らかにして改善策をたてたり、実行したことが改善にむすびついているかどうかを確かめることによって、継続的な改善を図るためです。今回は、診療・ケアを適切に提供するうえで最も基本的な情報の記載欄である「患者プロフィール」への、「職業歴」「喫煙歴」「飲酒歴」の記載率について紹介します。

当院では入院の際や健診受診時などに、ご家族のことや現在の仕事とこれまでの職歴、生活習慣などについてうかがっています。現在の健康状態との関係を考えていくために大切な情報となり、医療スタッフが必要時いつでも確認できる情報として記載しておくことが大切です。

職業に関係した病気は、じん肺や振動病などが有名ですが、比較的最近ではアスベストと中皮腫、印刷業と胆管がん、原子労働者の放射線被ばくが問題となっています。また、変則勤務による不規則な食事や睡眠時間の変動、長時間労働、職業ストレスあるいは対人ストレスなどを生み出す勤務形態・職場環境や、長時間同じ姿勢を強いられる作業環境など、現在起こって

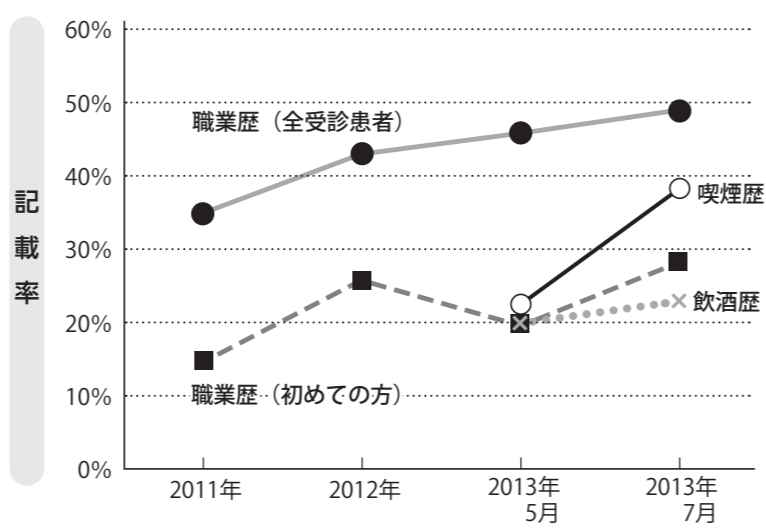
いる健康上の問題が、過去から現在の労働や生活の中にその原因が隠れている場合があります。その原因をとりのぞいたり軽減したりして健康問題の解決を図るためです。まだまだ十分とはいえませんが、図のように少しずつですが記載が進んでいます。

WHO（世界保健機構）は5つの健康を害するリスク要因として栄養不良、肥満、運動不足、喫煙、飲酒をあげています。喫煙がリスクを高める病気として、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺がん、咽喉がん、喉頭がん、食道がん、胃がん、膀胱がん、子宮頸がん、心筋梗塞など虚血性心疾患、腹部大動脈瘤、ほかに糖尿病や胃潰瘍、不妊などのリスクが高くなることも知られています。毎日喫煙する人だけでなく、受動喫煙する人にとっても問題です。また、適量を超え健康を害する飲酒は、急性または慢性のアルコール中毒、アルコール性肝炎・脾炎の原因となり、口腔がん、咽喉がん、

喉頭がん、食道がん、肝がん、大腸がんや乳がんの原因となると注意喚起されています。

おひとりおひとりの大切な情報を健康づくりに役立て、健康で安心して働ける職場づくり・環境作りを考えたり、生活習慣を見直したりすることで地域まるごと健康づくりをすすめ、医療サービスの質の改善を行う病院づくりに取り組んでいます。（診療情報部）

図 患者プロフィールへの基本情報記載率



## 当院と医療連携している 39 開業医さんのご紹介 渋川産婦人科医院



住所：〒333-0848 川口市芝下3-42-15 ☎048-265-5290

【診療科】

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	—	○*	○	○	○	○*
午後 14:00~18:00	○	—	—	○	○	○	—

\*水曜・日曜日 午前9:00~午後1:00まで

【診療科】産科、婦人科  
【休診日】火曜日、水曜日午後、日曜日午後



沼口 正英先生

平成8年に私が院長として赴任した当時は、市内・近隣に20数箇所の産科医療施設がありましたが、現在は半分以下になってしまいました。数少ない地元の産科医療施設として粉骨砕身の気持ちで診療をしています。ベテランの助産師や全スタッフで、フリースタイルでの出産と、できるだけ家庭の雰囲気を保ちリラックスした気持ちでお産に臨んでもらえるように、ご主人やご家族の立会いもすすめて、年間360~370件の分娩に対応しています。お産に限らず、更年期外来や婦人科一般外来、各種検診も行っておりますので、お気軽にご相談下さい。

埼玉協同病院には日頃より大変お世話になっており感謝しています。今後、小児科での新生児医療の充実も含め、地域の基幹病院としての役割発揮に期待しています。

院長：沼口 正英

\*「ふれあい」に掲載の開業医さんを受診される際は、受診前に必ず問い合わせをお願いします。

## 早期発見、早期治療が要です 乳腺医療 チーム 乳がん検診を受けましょう

日本における乳がんの罹患率、死亡率の年次推移は一貫して増加傾向にあり、マンモグラフィを併用した乳がん検診の受診率向上による早期発見・治療が望まれています。また、乳腺密度の高い方（特に30代・40代）は、超音波も併用した検診が推奨されます。早期発見、早期治療のために乳がん検診を受けましょう。

当院では検診施設としてだけでなく、地域の精検施設としての役割（治療や緩和ケア等）を担っております。検診から外来、手術、化学療法等の一連を円滑に行うために医師・看護師・事務・コメディカルスタッフがチーム医療の構築を図り、地域の皆様が安心して受診できる医療を目指しています。乳がん検診をご希望



金子しおり乳腺科医長（前列左から二番目）と多職種で構成された乳腺医療チームのスタッフ

の方は健康増進センターにお問い合わせください。

（健康増進センター ☎048-296-4880）

## 皮膚科 イオン導入のご案内

皮膚科外来では、午後の時間にビタミンA、ビタミンC含有のイオン導入剤での施術をしています！

紫外線の曝露により皮膚ではメラニンが産生され、皮膚のはりを保っているコラーゲンなどの減少をまねきます。そんな皮膚に必要なのがビタミンAとビタミンCです。ビタミンA、Cはメラニンの生成を抑制し、コラーゲン等の生成を促進します。通常ぬっただけでは皮膚にはあまり浸透していきません。イオン導入は薬剤をイオン化し電氣的な性質を利用して有効成分を多量に皮膚に浸透させます。またその上からパックを行うことによりさらに浸透を促します。定期的イオン導入を行うことにより、くすみやシミを改善して、はりのある健康的な肌を維持することができます。

イオン導入は予約制です。ご希望の方は予約センターにご連絡ください。



ビタミンAを配合したジェルで、活性酸素を抑制・消去し、肌の酸化を防ぎます。



肌を沈静しながら、有効成分の浸透を促します。

## いのちの授業を行いました いのちの大切さ、尊さを 知るきっかけに

8月3日（土）に夏休み特別企画として、いのちの授業公開講座を行いました。

今回は、5歳から12歳までの子ども20名と保護者15名、総勢35名の方を対象に「生と性」についての授業を行いました。いのちの授業とはどのような話なのか、事前に大人から話を聞いてきている子どもも多く、出産シーンのビデオをみたり、妊婦体験や、赤ちゃんの人形を抱く等の体験をしながら、こちらの問いかけに一生懸命応えてくれました。また、今回は妊娠8ヶ月の妊婦さんの胎児心音を聴いたり、お腹を触る体験もしました。子どもたちの感想からは「私は、お父さんとお母さんの命をもらって生まれてきたことを初めて知りました。卵子と精子がめつたに会えないのに、私のときは会うことができるとてもうれしいです。お母さんにまた子どもを産んで欲しいです」「お母さんがとっ

ても痛い思いをして私を産んでくれたことがわかりました」「妊婦さんがいたら、お手伝いしてあげたいです」と、授業に参加して、命の大切さ、尊さに気づくきっかけになれたのではないかと思います。（産婦人科 助産師 政宗志帆）



## 虹の投書箱 だよ

### 検査時の不安を拭えるよう対応します

問 乳房のMRI検査の際、男性の技師の方が2名で対応してくれたのですが、女性スタッフの付き添いがなく、とても不安で辛い思いをしました。

答 この度は、MRI検査において大変ご不快な思いを与えてしまい、誠に申し訳ございませんでした。今後は検査時に女性職員が付き添うことにいたします。また事前の検査説明を十分に行い安心して検査を受けていただけるよう対応いたします。

回答者：松本 茂（放射線画像診断科科長）

### 協子ちゃんの健康マメ知識 第142回

● 検査データの見方 鉄編 ●

健康診断で指摘される貧血の90%以上が鉄欠乏性貧血です。ですので貧血が見つかる次は鉄の検査ということになります。

人間の体内には男性で約4g、女性で約2.8gの鉄が存在します。そのうち70%近くがヘモグロビンという形で赤血球内に、3%がミオグロビンという形で筋肉内に、残りはフェリチンなどの貯蔵鉄として肝臓に存在しています。女性の場合は月経や妊娠などで鉄の必要摂取量が増えるにもかかわらず摂取量の不足、例えば不適切なダイエットが原因で鉄が不足するこ

とがあります。また、胃潰瘍や胃がん、大腸がんによる消化管出血が原因で慢性的な出血が続く鉄不足に陥ることがあります。1日の必要摂取量は月経がある年代の女性で1.4mg、妊婦は5~6mg、成人男性は0.5~1.0mgといわれていますが、食物中の鉄はわずかに10%しか吸収されません。ビタミンCは鉄吸収を促進し、肉に含まれる鉄は比較的吸収が良いことが分かっています。よく行われる鉄の検査には血清鉄、フェリチン、TIBC(総鉄結合能)があります。これらの結果を組み合わせると貧血の種類診断に用いられます。

おしらせ 10月より、耳鼻咽喉科の診察が午前9時から開始となります。

